ASC 養殖場基準

魚の健康と福祉

パブリックコンサルテーション

2022 年 9-10 月

目次

1 背景 3

1.1 目的 4

1.2 アプローチ 4

2 参加 6

2.1 目標に対する進捗 8

3 フィードバックのサマリー 10

3.1 主要テーマ 10

3.2 すべてのフィードバック 16

3.3 ネクストステップ 16

略語 17

付属資料: 回答者リスト 18

本報告書は、現在進行中のポリシー策定を対象としたものであり、水産養殖管理協議会の最終的なポリシーや立場を反映したものではありません。

1 背景

ASC 養殖場基準の調整プロセスの目的は、現在 ASC 基準の適用範囲内にあるすべての水産養殖種に適用可能な、単一のベストプラクティスであるグローバル水産養殖基準を開発することです。ASC 養殖場基準は、生産システム固有の基準と、必要に応じて種固有の指標を持つことになります。養殖場基準は、養殖場の環境と社会的パフォーマンスを評価するための要件を設定する 3 つの基本原則で構成されています。2022 年 9 月から 10 月にかけて行われたパブリックコンサルテーションでは、原則 2：判定基準 2.6「底生生物への影響」と判定基準 2.14「魚の健康と福祉」が取り上げられました。2023 年 3 月から 4 月にかけては、さらにテーマ別のコンサルテーションが行われ、2023 年 9 月から 10 月にかけては、養殖場基準全体に関する最終コンサルテーションが予定されています。最終コンサルテーションに先立ち、養殖場でのパイロットテストと影響テストも実施される予定です。ASC 養殖場基準の採用に関する最終決定は、2024 年 3 月に行われる予定です。

調整プロセス – *ASC養殖場基準*

図 1: ASC 養殖場基準のタイムライン

ASC 養殖場基準のうちコンサルテーションが行われた 2 つの基準の開発段階において、トピック別の技術作業部会 (TWG) が形成されました。TWG は、異なるステークホルダー部門から、その主題に特化した専門家で構成されています。これらの TWG からの提言は、パブリックコンサルテーションのため 2022 年 9 月に 60 日間公開された基準のドラフトに組み込まれました。本報告書は、「魚の健康と福祉」判定基準に関連するコンサルテーションの目的と成果を取り上げています。判定基準 2.6「底生動物への影響」に関するコンサルテーションの結果と考察については、ASC 養殖場基準 PC - 底生動物への影響 サマリーレポートを参照ください。

1.1 目的

このパブリックコンサルテーションの目的は以下の通りです:

- 提案された ASC 養殖場基準が、ステークホルダーの期待に沿って、水産養殖の主要な持続可能性の問題に対処しているというコンセンサスを構築すること
  - これまでの 11 魚種の基準を統合し、それらに置き換わる調整プロセスについての認識を深めること
  - 提案された指標／判定基準の文言についての合意を求めること
- 特定のステークホルダーグループに対する提案の影響を理解すること
- ASC 養殖場基準が監査可能かどうかについて、適合性評価機関（CAB）からの見識を得ること
- ASC 養殖場基準が全ての生産システム、地域、魚種、養殖場規模に適用可能かどうかの見識を得ること
- 判定基準 2.14 魚の健康と福祉に関するこれまでのステークホルダーからのフィードバックが考慮されていることを確認すること

また、コンサルテーションは、今後ステークホルダーに影響を与える可能性のある変化に対する認識を高め、プログラム利用者とより深く関わり、ASC プログラムとその影響について理解を深めるための重要な方法です。

1.2 アプローチ

ASC は、ステークホルダーが基準の内容の決定根拠を理解できるよう、透明性の確保に努めています。 第 3 章では、寄せられたフィードバックの中で提起された主要なテーマに関する ASC からの回答を含む、フィードバックのサマリーを掲載しています。また、ASC は受領したすべてのコメントを公表しています。ステークホルダーが完全でオープンなフィードバックを提供できるよう、ASC は公表された回答の帰属を明らかにしていません。フィードバック提供者の名前と組織は、別途公開され、この文書に添付されています。ASC は、匿名での提出を受け付けていません。

ASC は、4 つの方法でフィードバックを集めました:

- 英語でのオンラインサーベイ

- オンライン公開ワークショップと地域・国際的なパートナーとのターゲットワークショップ
- 1 対 1 の対面ミーティングおよび電話
- E メールによるフィードバック記述

ASC はまた、ステークホルダーに対する対話とアクセス性を高めるためにいくつかの方法を採用しました:

- コンサルテーションの質問内容の英語、インドネシア語、ポルトガル語（ブラジル）、中国語（簡体字）、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語、トルコ語およびベトナム語への翻訳
- Mailchimp キャンペーン（4,474 人にメール配信）と ASC ニュースレター（956 人購読）による直接の対話
- ASC のウェブページにリンクされたソーシャルメディアコミュニケーション（LinkedIn および Twitter）
- 判定基準ドラフト 2.14 「魚の健康と福祉」の英語、インドネシア語、ポルトガル語（ブラジル）、中国語（簡体字）、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語およびトルコ語への翻訳
- 判定基準に関するスライド（英語、ポルトガル語、フランス語、ドイツ語、日本語、スペイン語、トルコ語およびベトナム語）
- 調整プロジェクトと判定基準レベルでの提案を説明したショートビデオ
- よくある質問（FAQ）などの付随資料の公開
- ASC 養殖場基準比較ツールの更新版リリース

2　参加

このパブリックコンサルテーションの焦点は、水産養殖を持続可能なものに変えていくためのツールとして、リーチしづらいステークホルダーや、ASC 基準の内容及び/または基準一般に批判的な人々を含め、基準の信頼性の観点で重要な視点を持つ人々を巻き込むことでした。ASC 養殖場基準に関するコンサルティングのために、ASC は 13 のステークホルダーのカテゴリーを特定しました。また、7 つの優先的なステークホルダーグループも特定しました:

1. 学術/研究
2. CAB/監査人
3. 環境・社会 NGO
4. 養殖場（生産者）またはその団体
5. 政府間組織
6. 一時加工業者またはその団体
7. 小売業者/ブランドまたはその団体

合計で 103 名の回答者（個人のほか、大規模な国際機関や協会も含まれます）がコンサルテーション活動に参加しました。これらの回答者の中には複数の方法（書面によるフィードバックやオンラインフィードバック・ワークショップへの参加）でご意見を下さった方もいるため、この数は合計回答数である 137 とは異なります ASC は、ステークホルダーグループ間のフィードバックのバランスを取ることを目的としています。フィードバックの量や支持の度合いだけで、ポリシーが決定されることはありません。

フィードバック方法	回答数*	回答者数*
オンラインサーベイ	75 件	68 団体/独立した個人
ウェビナー/ワークショップ	69 件	46 団体/独立した個人
1 対 1 の対面ミーティングおよび電話	9 件	7 団体/独立した個人
E メールフィードバック	4 件	4 団体/独立した個人
合計	**137 件**	**103 団体/ 独立した個人**

表 1: ASC 養殖場基準の判定基準「底生動物への影響」と「魚の健康と福祉」に関するパブリックコンサルテーションへの全体参加

**回答数は、実際に寄せられたフィードバックの数を指します。*回答者は、フィードバックを提出した団体または個人を指します。1 つの団体で複数の方からご意見をいただいた場合は、まとめて表記しているため、列によって数値が異なる場合があります。*

***太字**の合計回答者数は、複数の経路からフィードバックがあった場合でも、1 回のみカウントしたものです。*

ASC は、様々な部門や地域の関係者を集め、魚の健康と福祉に関する 2 つのオンライン公開ワークショップを開催しました。これらの同一のワークショップは、異なるタイムゾーンに対応するため、1 週間あけて 2 日間にわたり開催されました。ワークショップには合計で 50 名以上という多くの人数が参加しました

オンライン公開ワークショップに加え、ASC は、このコンサルテーションに特に関連すると思われる特定の地域やステークホルダーを対象としたフィードバックワークショップを開催しました。このワークショップには、合計で約 30 名という多くの人数が参加しました。

直接の対話、特に個人的な E メールは、ほとんどのステークホルダーグループにとって、フィードバックを得るための最も効果的な方法であることが証明されました。

2.1 目標に対する進捗

優先ステークホルダーからのフィードバックのレベルは高く、様々な対話とフィードバックの方法を提供するために投入したリソースを反映しています。以下の表は、優先ステークホルダーグループごとの回答者数を示しています:

ステークホルダーグループ	フィードバック目標	回答者数
学術/研究	1	7
CAB/監査人	2	12
環境・社会 NGO	3	19
養殖場（生産者）またはその団体*	19	32
政府間組織	4	1
一時加工業者またはその団体	8	13
小売業者/ブランドまたはその団体	4	15
その他（コンサルタント、飼料工場、二次加工業者（貿易業者）またはその団体、その他）	-	15
合計	**-**	**103**

表 2:優先ステークホルダーグループごとの回答者数

** 5 つの養殖場協会、27 の養殖場（うち 21 養殖場が認証取得済み）からフィードバックがありました。一部の養殖場（生産者）は、一次加工業者でもあります。*

以下の表は、フィードバックの目標と実際の回答者数を示しています。様々な活動を通じて、政府間組織（1 つの組織からのみフィードバックがありました）を除き、ほぼすべての主要なステークホルダーグループにおいて、フィードバック目標が達成されました。他の潜在的な参加者については、リソースの不足が障壁として挙げられました。 このグループは、次回のパブリックコンサルテーションで、より直接的なツールを使って、おそらく 1:1 の会議を行い、直接質問をする予定です。残りのカテゴリーでは、特定のサブグループの参

加者が限られていました。これには主に非認証養殖場（生産者）が含まれます。この層へのアプローチは、最終パブリックコンサルテーションで再び試みられる予定です。

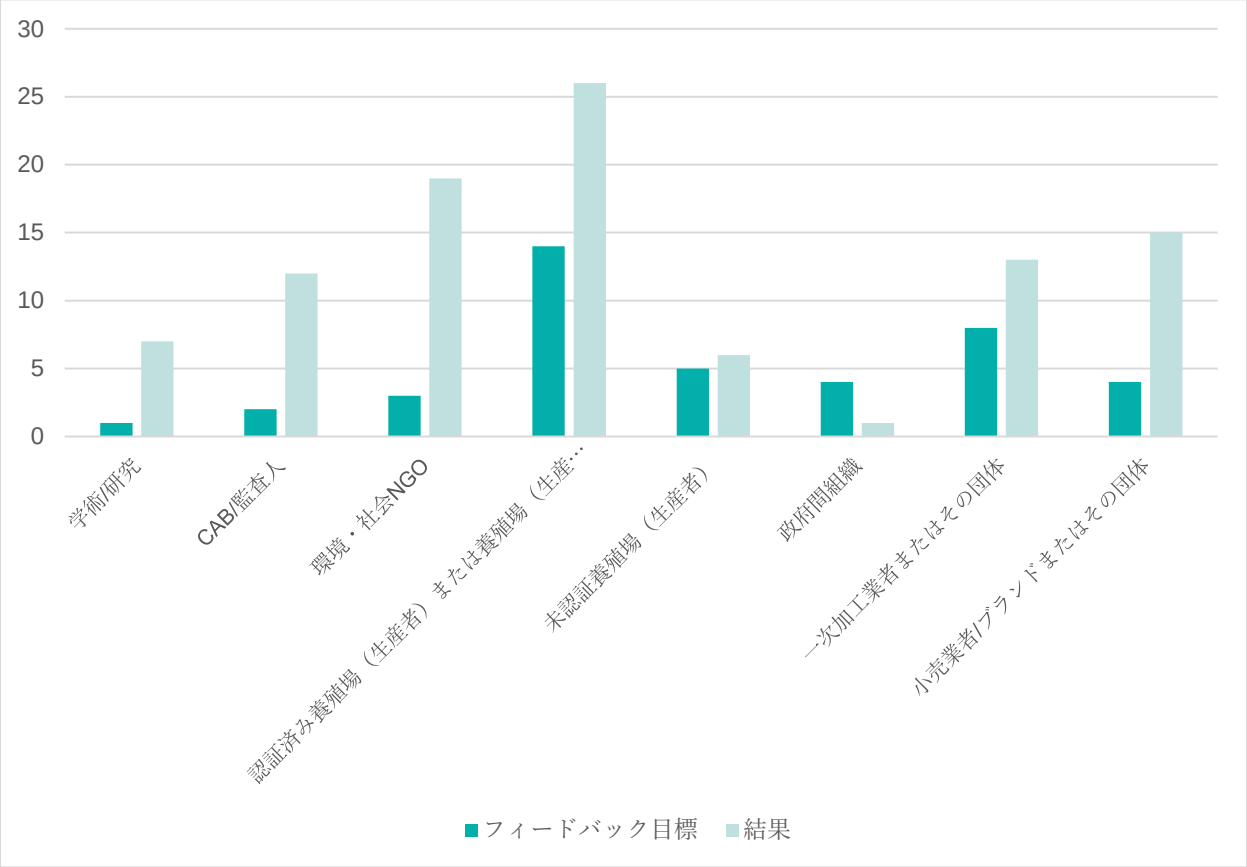

図 2: セクター別の参加目標と結果の比較

注：環境 NGO と社会 NGO についての目標は、国際的に活動する NGO に対してのみ定義されました。フィードバックを提供した 19 の NGO のうち、6 つは国際的に活動する NGO です。小売業者/ブランドには、優先順位が低く、ターゲット外である市場でしか活動していないステークホルダーからのフィードバックが含まれています。

3 フィードバックのサマリー

全体的に、コンサルテーション期間のフィードバックは、判定基準 2.14「魚の健康と福祉」を ASC 養殖場基準に含めることへの強い支持を示し、ステークホルダーは、懸念される追加領域に対処する ASC の提案に肯定的でした。いくつかのステークホルダーは、提案された指標の実施と、健康状態を評価するための一貫したアプローチがどのように行われるかについて懸念を示しました。さらに、監査人のトレーニングや、養殖場管理システムが十分に実践されているかどうかを判断する監査人の能力に関する懸念もいくつかありました。以下は、各判定基準について寄せられたフィードバックの詳細です。頂いたご意見は、最終的な指標案の作成と、要求事項に付随する追加的な解釈マニュアルの作成に役立てられます。

3.1 主要テーマ

主要テーマ	コンサルテーションフィードバックのサマリー	ASC の回答/ネクストステップ
判定基準 2.14a - 魚の健康と福祉	- ステークホルダーは、日常的な飼育に関連する福祉的要素は 2.14 で十分カバーされているものの、行動学的・形態学的スコアを効果的に利用するためには、さらなるガイダンスが必要であることに同意しました。 - 作業福祉指標（OWI）のモニタリングにビデオを使用することに関して、明確化が指摘されました - NGO と一部の生産者の間では、ASC は魚種の仕様とシステムに従って、飼育密度と死亡率に何らかの数値指標を設定するべきだ	- ASC は、より詳細な定義や提案されている管理システムの適用性など、付随する解釈マニュアルを作成中です。 - いくつかの制限値の設定に関連して強調された問題は、現在内部で修正されており、技術作業部会 （TWG）で更なる議論が行われる予定です。 - ASC は、CAB が提案された要求事項を解釈し評価する際に遭遇する可能性のある課題

主要テーマ	コンサルテーションフィードバックのサマリー	ASC の回答/ネクストステップ
	という一般的な懸念がありました。さらに、池の中の死亡魚の除去の正確さに関する提案も共有されました。 - NGO や養殖生産者からは、認証・未認証を問わず、管理システムが十分に実践されているかどうかを判断するための監査人のトレーニングについて懸念が示されました。 - トレーニングの要求事項はステークホルダーグループ全体でよく受け入れられていますが、内容は魚の虐待を構成する事項の明確な定義を含めるべきと指摘されました。また、ステークホルダーは、特に研修プロバイダーへのアクセスが限られている国において、要求される研修の質と一貫性を維持するために、ASC からの資料と承認されたトレーナーの必要性を確認しました。魚の健康と福祉の評価中に継続的な開発トレーニングを行っている国では、トレーニングの頻度間隔に関する提案がなされました（例えば、ノルウェーの食品安全局では、5 年ごとに魚の健康と福祉のリフレッシュトレーニングを要求しています）。 - ある生産者は、水質の検証は、パラメータと頻度に関するリスク評価に基づかなければならないと述べました。NGO は、最小限のモニタリング頻度では不十分であると考え、「ニーズに基づく」水質パラメータに特定の頻度が必要であることを支持しまし	を理解するために、 CAB との継続的な関与を支持します。 - パイロット版では、判定基準のフィードバックが求められ、養殖生産者と認証機関の両方にとって指標を明確にし、課題を明らかにするのに役立てられます。 - トレーニングのサポートは、品質とトレーニングの一貫性を維持するために、内部および外部プロバイダーと協議中です。 - 水質頻度および追加パラメータは、改訂プロセスにおいて考慮され、TWG との更なる議論に従って、適宜統合される予定です。

主要テーマ	コンサルテーションフィードバックのサマリー	ASC の回答/ネクストステップ
	た。異なるステークホルダーグループからのいくつかのコメントでは、ペンの中のリン、池の硬度/アルカリ度、酸化還元電位/塩化物濃度のモニタリングは、一般的に含まれるべきであると指摘されました。	
判定基準 2.14b – 魚の締め	- 締め方に関する福祉的側面は、2.14b で十分にカバーされていると考えられ、どのステークホルダーもこの判定基準について重大な問題を提起しませんでした。ステークホルダーは、設備設計の必要性、密集要求事項に関する明確化、容認できない行動、密集スコア、過密期間の最大期間を検討すべきであると述べました。また、第三者企業による締めに関する ASC の立場を明確にすべきとする意見もありました。 - ステークホルダーは、魚に麻酔をかけることが不可能な多くの状況があることを認識しています。彼らは、麻酔を使用する場合と使用しない場合の両方の副作用を認識しながら、締め作業中の麻酔の使用の必要性を認めています。 締め作業に麻酔を使用することについては、一般的な同意が得られています。 - ステークホルダーは、健康評価に最適な時期は、締めの 1 日前から 48 時間前まで、または締めが始まる直前と考えました。しかし、健康評価の内容や評価する魚の最低数に関する明確化が必要	- ASC は、密集時の行動や密集前の健康評価に関するより詳細な説明を含む解釈マニュアルの作成に取り組んでいます。 - 水面外の時間や飢餓制限に関連して強調された問題は、現在内部で修正されており、TWG でさらなる議論が行われる予定です。 - ASC はパイロット版で指標を試行します。

主要テーマ	コンサルテーションフィードバックのサマリー	ASC の回答/ネクストステップ
	です。サケ科魚類業界からは、ウミジラミ治療の回数を考えると、治療のたびに獣医師または魚類衛生管理者が署名する健康評価を実施することに関して懸念が示されました。 - 生産者は、締め作業における水面外と飢餓時間の制限を設けることに懸念を表明しました。NGO と他のステークホルダーは、魚のサイズに応じた種固有の水面外および餓死期間の制限を 15 秒とし、日単位で計算することを支持しています。	
判定基準 2.14c – 殺処分	- ほとんどのフィードバックは肯定的で、判定基準に関する大きな懸念は浮き彫りになりませんでした。装置と魚の始動チェック、気絶の有効性、失敗した場合のバックアップ計画の必要性については、いくつかの明確化が必要です。 - 殺処分施設に到着した魚の評価も、処理作業中の魚の虐待を評価するために考慮すべき重要な指標として言及されました。 - 乾式と湿式の電気気絶、可逆と不可逆の気絶が指標や解釈マニュアルで認められているかどうかを明確にする必要があるとの懸念が示されました。 - いくつかのコメントでは、養殖場基準は技術的に中立でなければならないとし、いくつかの魚種について、打撃式より電気式の気	- ASC は、提案された要求事項のより詳細な定義を含む、付随する解釈マニュアルを作成中です。 - ASC は指摘された問題を内部で再検討し、TWG でさらに議論する予定です。 - ASC はパイロット版で指標を試行します。

主要テーマ	コンサルテーションフィードバックのサマリー	ASC の回答/ネクストステップ
	絶が必要であるという点について適切な科学的根拠がないことを指摘しています。 - 氷スラリーの中で魚を気絶させることに対する ASC の立場は、このテーマに関して若干の混乱があるため、さらに明確化されるべきです。2 つのコメントは、温水種（ティラピア、パンガシウス、熱帯魚類）の気絶と殺処分に氷スラリーを使用することを支持し、2 つの異なるコメントは、電気気絶が必ずしも希望通りに機能しない地中海の魚種に氷スラリーを使用することを支持しています。 - 気絶させ、殺処分するための利用可能な解決策として、CO2 とガスミックス（CO2 と N2）の使用が挙げられましたが、同じ回答者は、これらの方法は研究施設でのみテストされているため、大規模生産規模でテストすべきという点に同意しています。 - いくつかのコメントは、ASC が承認した気絶・殺処分方法を実施するための提案された移行期間と、それがなぜ魚種によって異なるのかについて、根拠が示されていないことを指摘しました。ほとんどの回答者は海洋熱帯魚類の 6 年間の延長に同意していません。	

主要テーマ	コンサルテーションフィードバックのサマリー	ASC の回答/ネクストステップ
	- サケ科魚類業界の考察では、使用されている気絶装置の効果は95-96%であり、気絶と殺処分を区別することが重要で、例えば、95-96%気絶、100%殺処分というように、異なる目標を持つこともあり得ると述べています。	

3.2 すべてのフィードバック

ダッシュボードと全てのフィードバックはこちらで公開しています。

3.3 ネクストステップ

ASC は、2023 年 3 月と 4 月に、魚の健康と福祉、水質、ASC 認証の対象魚種をパイクパーチに拡大することについて、さらにステークホルダーコンサルテーションを行う予定です。多くのトピックは、2023 年 1 月に開始される養殖場でのパイロット審査で検証される予定です。2023 年 9 月に ASC 養殖場基準に関する 30 日間のコンサルテーションが行われ、その後 ASC の技術諮問部会（TAG）に最終版が提示されます。TAG は、2024 年 3 月に ASC 養殖場基準を採用するよう ASC 理事会に正式な勧告を行う予定です。

略語

略語	定義
ASC	Aquaculture Stewardship Council（水産養殖管理協議会）
CAB	Conformity Assessment Body（適合性評価機関）
NGO	Non-Governmental Organisation（非政府組織）
OWI	Operational Welfare Indicators（運営上の福祉指標）
PC	Public Consultation（パブリックコンサルテーション）
TAG	Technical Advisory Group（技術諮問部会）
TMFF	Tropical Marine Finfish（熱帯魚類）
TWG	Technical Working Group（技術作業部会）

付属資料: 回答者リスト

組織（ステークホルダー）	コンタクト先
AceAquatec	Nathan Pyne-Carter
Acoura Marine t/a LRQA	Daniel Gomez
Acoura Marine t/a LRQA	Jose Ignacio Llorente Lopez
Acoura Marine t/a LRQA	Lewis Warren
Acoura Marine t/a LRQA	Marianne Green
Acoura Marine t/a LRQA	Paul Macintyre
Acoura Marine t/a LRQA	Ryan Bae
AGFO Teknik Kontrol ve Belgelendirme Ltd. Sti. (Agfocert)	Beril Gül
AGFO Teknik Kontrol ve Belgelendirme Ltd. Sti. (Agfocert)	Hasan Hüseyin Öztürk
AGFO Teknik Kontrol ve Belgelendirme Ltd. Sti. (Agfocert)	Sibel Cengiz
Agroittica Toscana	Jacopo Anchisi
Agroittica Toscana	Piergiorgio Stipa
ALDI Einkauf SE & Co. oHG (ALDI Nord)	Sofia Telaak
ALDI SOUTH Group	Moritz Konz
Algarve Centre of Marine Sciences (CCMAR)	Marco Alexandre Cavaco Cerqueira
AMITA Corporation	Naoya Ogawa
AMITA Corporation	Tomomi Itagaki
AMITA Corporation	Wataru Koketsu
Animal Law Italia	Alessandro Ricciuti
Aqquua (Thailand) Ltd.	Raksaya Kumraksa
Aqua Spark	Flavio Corsin
Aquanexus	Karla Meza
Aquascot	Andrew Davie
Aquascot	Emily Purvis
Aquascot	Joel Ellis
Aquatic Life Institute / Aquatic Animal Alliance members	Tessa Gonzalez

組織（ステークホルダー）	コンタクト先
Assurance Services International (ASI)	Jose Carroza Valdivia
Australis Aquaculture	Josh Goldman
Autonomus University of Barcelona	Francesc Padros
AVRAMAR IBÉRICA	Eduardo Soler Torres
Azerbaijan Fish Farm LLC	Elshad Rzayev
Azerbaijan Fish Farm LLC	Jeyhun Aliyev
B2E CoLAB	Ana Rita A. Ribeiro
Bakkafrost Scotland Ltd	Kimberley McKinnell
British Colombia Society for the Prevention of Cruelty to Animals (BC SPCA)	Melissa Speirs
British Veterinary Association	Megan Knowles-Bacon
Bureau Veritas Certification Denmark A/S	Julie Jørgensen
Bureau Veritas Certification Holding SAS	Do Minh Thuc
Bureau Veritas Certification Holding SAS	Linh Nguyen
Bureau Veritas Certification Holding SAS	Nam Nguyen
Carrefour	Elsa de Deus
Cermaq Norway	Ingunn Johnsen
Comité Interprofessionnel Produits Aquaculture (CIPA)	Mohamed Moustapha
Compassion in World Farming (CIWF)	Elena Lara
Control Union Peru SAC	Fernanda David
Control Union Peru SAC.	Cristhian Armijos Davila
Cooke Aquaculture Scotland	Andrei Bordeianu
Cooke Aquaculture Scotland	Michelle Johnson
Cromaris	Ivana Simunovic
Cromaris	Julija Smoljan
Cromaris	Matko Kolega
Crustacean Compassion	Laura McAnea
Dainichi	Mr Yuta
Dansk Akvakultur - Danish Aquaculture	Lisbeth Less Plessner
Deutscher Tierschutzbund e.V.	Denise Ritter

組織（ステークホルダー）	コンタクト先
Deutscher Tierschutzbund e.V.	Melanie Thill
Dierenbescherming	Janneke Aelen
Djurens Rätt	Linda Björklund
Djurskyddet Sverige	Emma Brunberg
DNV Business Assurance Italy S.r.l.	Henrik Rosendahl Kristiansen
DNV Business Assurance Italy S.r.l.	Kjell Bekkevold
DNV Business Assurance Italy S.r.l.	Roar Leksen
Edeka Südwest Fleisch	Lisa Maxi Karpeles
Essere Animali ETS	Luca Melotti
Eurogroup for Animals	Douglas Waley
FAI FARMS	Murilo Quintiliano
Fish Welfare Initiative	Marco Alexandre Cavaco Cerqueira
Foods Connected	Charlotte Maddocks
Freelancer	Li Haifeng
Freelancer	Mohan Abch
Global Ocean Works (GOW)	Toshiaki Yonemori
Global Trust Certification Limited	Spyros Nikolakakis
Grand Frais	Solenne Arnal
Grieg Seafood BC Ltd.	Kristin Storry
Grieg Seafood BC Ltd.	Luke Pletsch
Grupo Culmarex	Philippe Sourd
Grupo Granjas Marinas S.A	Jose Luis Avila
HanseGarnelen AG	Leona Ritter
Hilton Seafood UK	Teresa Fernandez
Independent Auditor	Paul Casburn
Institute of Agrifood Research and Technology (IRTA)	Ana Roque
Intertek Testing Services Ltd.	Bangping Wang
Intesal	Alexander Jaramillo
JASS Ventures Pvt Ltd	Joe Antony
Kamakura Suisan Cooperative	Akiyuki Kanabo

組織（ステークホルダー）	コンタクト先
Kingfish Zeeland	Kim Tiebie
KOLOS Aqua AS - Essentia AS	Trygve Helle
Maruha Nichiro	Takashi Kouyama
Maruha Nichiro	Toshihiko Yamaguchi
Maruha Nichiro	Yuta Hamasaki
Marukin	Shingo Suzuki
MerAlliance	Vincent Gélamur
Migros-Group	Nicole Fischer
Moredun Scientific Ltd	Guillermo Bardena
Napier	Kare A. Cederstrom
Nautilus Collaboration	Belinda Yaxley
New England Aquarium	Dr. Kathryn Tuxbury
New England Aquarium	Matt Thompson
New England Seafood Ltd (Sealaska group)	Duncan Lucas
Nomad Foods	Oliver Spring
Nova Austral	Ignacio García
PICARD	Sidonie Malegeant
Prosol	Maxime Engler
Regal Springs	Agusmanto Anggiat M. Sihombing
Regal Springs	Emily McGregor
Regal Springs	Friska S Saragih Saragih
Regal Springs	Hasim Djamil
RSPCA	Sean Black
RSPCA Australia	Melina Tensen
Salmon Scotland	Iain Berrill
Salmon Scotland	Richard Beckett
Salmones Camanchaca S.A.	Karen Muñoz
ScaleAQ/Nord university	Torstein Kristensen
Sea Farms Ltd	Louis Cattini
Sea Farms Ltd	Shannon Roberts

組織（ステークホルダー）	コンタクト先
SeaChoice/Living Oceans Society	Kelly Roebuck
Seafarm BV	Marten Bosma
SGS Nederland BV	Nikki den Boon
Shrimp Welfare Project	Andres Jimenez Zorrilla
Skretting Japan	Yoshiaki Ina
Stingray Marine Solutions AS	Julie Døvle Johansen
Superunie	Kyra Weerts
Syndicat National du Commerce Extérieur des produits congelés et surgelés (SNCE)	Annie Seng
tegut... gute Lebensmittel GmbH & Co. KG	Christina Walter
Tesco	Ben Weis
The Humane League	Aaron Parr
The Humane League	Shannon Davis
Université de Liège	Carole Rougeot
University of Stirling	Jimmy Turnbull
UrataSuisan	Masaki Urata
Vietnam Association of Seafood Exporters and Producers (VASEP)	Tran Thuy Que Phuong
WELFARM	Gautier Riberolles
WildFish Conservation	Matt Palmer
WOAH (OIE)	Dante Mateo
Woolworths	Anna Playfair-Hannay
WWF-Malaysia	Victor Andin
Yumigahama Fisheries Co.	Ryouji Kuranaga